Club traveler

Hilton Grand Vacations

「旅」の愉楽を求めるすべてのクラブメンバー様へ

2019年 春号

特集1

ハワイアンアート最前線へ

巻頭インタビュー

武田双雲

特集2

カリブ海の新しい我が家バルバドスへ

武田双雲

書道家

Master of Vacation

Interview with Takeda Souun

書道家という肩書きを
軽やかに飛び越え
さらには国境をも越えて
世界中で活躍する武田双雲さん。
2020年からは
拠点をカリフォルニアに移し、
アート活動にも力を注ぐそう。
2男1女の父親でもある
武田さんに、旅の極意や
家族とのバケーション、
旅先での過ごし方について
話を訊きました。

文／真下武久　写真／萱野浩二
Text by Takehisa Mashimo　Photo by Koji Kayano

クラブメンバーの皆様へ

2019年、最初の『クラブトラベラー』へようこそ!

昨年は全世界でクラブメンバー様の数がついに30万組を超え、日本でも6万組を上回るクラブメンバーの皆様に、ヒルトン・グランド・バケーションズを使ったバケーションを楽しんでいただけるようになった節目の年となりました。これに伴い、私達もいくつかの新しいリゾート開発に取り組み、モバイルアプリケーションの強化やメンバーオリエンテーションの開催など、さまざまなメンバーシップ・サービスの充実にも力を注いできました。

とりわけ、私が素晴らしいと思っているのは、新たなクラブリゾートの1つとして誕生した「ヒルトン・グランド・バケーションズ・アット・ザ・クレーン」です。カリブ海の南東に浮かぶバルバドス島に位置し、1887年に創業したカリブ海最古のリゾートをベースとしています。まさに、美しいビーチと一年中晴天に恵まれる南国のパラダイス。その様子は、現地を訪れたクラブメンバーの皆様から逐次フィードバックを頂戴しています。今号の特集2でも魅力の一端をご紹介していますので、まずは誌上にてお楽しみいただき、ぜひ実際にご滞在のうえ、その目でお確かめいただければと思っています。

これに加え、アメリカ・サウスカロライナ州にこの春お目見えする「オーシャン・エングレーブ・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ」も注目のクラブリゾートです。地上27階建てのオーシャン・エングレーブは、米国有数のリゾートエリアとして知られるマートルビーチに位置しています。この地域には80近くのゴルフコースがあり、ゴルフ愛好家の方々にもきっとご満足いただけるでしょう。

私共はクラブメンバーの皆様に寄り添い、よりよいバケーション・エクスペリエンスをご提供できるよう、さらなる努力を続けてまいります。2019年もまた、皆様と一緒に旅を続けられることを楽しみにしています。

スタン・ソロカ
チーフ・カスタマー・オフィサー

Cover Story

島全体が珊瑚でできているバルバドスは、海の透明度が驚くほど高く、美しい白砂のビーチが広がっています。波が穏やかなブラウンズビーチやペブルビーチには、日々多くの観光客が訪れ、パラソルの下でのんびりと過ごします。

COVER: MARIO CLERMONT/GETTY IMAGES
BACK COVER: GAVIN HELLIER/STOCKSY

Hilton Grand Vacations Club

6355 MetroWest Boulevard, Suite 180
Orlando, Florida 32835 USA

クラブトラベラーは、ヒルトン・グランド・バケーションズにより発行され、ヒルトン・グランド・バケーションズのクラブメンバー様に配布されています。
ヒルトン・グランド・バケーションズ®およびヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ®は、ヒルトン・ワールドワイド・ホールディングス社またはその子会社の登録商標であり、ヒルトン・グランド・バケーションズ社にライセンスが付与されています。ヒルトン・グランド・バケーションズ並びにそのオーナーシップ施設およびクラブの各プログラムは、ヒルトン・ワールドワイド・ホールディングス社とのライセンス契約に基づき、ヒルトンの名称により運営されています。ヒルトン・オナーズ™は、ヒルトン・オナーズ・ワールドワイド社の商標です。
©2019 Hilton Grand Vacations Inc.

ご意見をお寄せください!

今回の記事はいかがですか？
クラブトラベラーへの
ご意見・ご感想をお待ちしています。
feedback@clubtravelerjapan.com
までお気軽にEメールをお送りください。

Club traveler 2019年 春号

[特集1]
6 ハワイアンアート最前線へ
Modern Art Journey in Hawaii

[特集2]
15 カリブ海の新しい我が家 バルバドスへ
BARBADOS YOUR NEW CARIBBEAN HOME

[Master of Vacation]
3 武田双雲（書道家）

[Column for Club Traveler]
14 FROM OVERSEAS
日本に上陸する日も近い!? 写真映えするNY最新スイーツ
24 TIPS
旅の達人が教えるESTAの失敗しない申請法

[HGV Recommend]
20 ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ・アット・タスカニー・ビレッジ

[Club Traveler Website]
25 Club Travelerとメールマガジンのデザインを一新

[From Club Members]
26 フロム クラブメンバーズ

[HGV TODAY & FUTURE]
28 よりよいバケーションライフをお届けするために

[Club Information]
30 クラブ・インフォメーション

[RCI Exchange]
34 楽園バリへようこそ!

がんばり過ぎないこと。
リラックスしないと
いい書は書けません。
旅も毎日の暮らしも
同じことです。

Master of Vacation

Interview with
Takeda Souun

書道家やアーティストと聞くと気難しいイメージがあるかもしれませんが、武田双雲さんの第一印象は屈託がなくオープンマインド。常に笑顔を絶やさず我々取材スタッフを快く迎え入れてくれました。

「実はリラックスしていないと、いい書は書けないんですよ。思い詰め過ぎたり、がんばり過ぎたりはよくない。僕の場合はもともとの性格かもしれませんが（笑）、いつも笑いながら楽しく暮らしています」

現在、湘南で書道教室を主宰しながら、全国各地で講演やワークショップを行い、海外のイベントに招かれることも多い武田さん。1年半ほど前からは「書」というジャンルを飛び出し、絵の具や画材を駆使したアート作品づくりに取り組んでいます。来年には書道教室を閉め、LA郊外のオーハイという町に移住し、本格的にアート活動をスタートさせる予定です。

「これまで墨を使ったモノクロの世界で生きてきたので、今はカラフルな絵の具を使っての創作活動が楽しくて楽しくて、3歳児に戻ったような気分です。実をいうと、一目惚れしてオーハイにアトリエも購入してしまったんですよ。ほぼ直感です」

オーハイはLAから北へ車で1時間半ほど走った山間の町。生まれ故郷である熊本の阿蘇の風景にどことなく似ていて、現在暮らしている湘南のゆるやかな空気感にも重なるんだとか。そして何より、オーハイに暮らす人々の幸せそうなオーラが気に入ったのだそうです。

「オーハイに行くと、自分が開いてるなって感じるんです。旅と一緒で、環境が変わると、感じ方やモノの見方も変わりますよね。オーハイへの移住は旅の続きのような感覚です。今はオーハイでの暮らしや創作活動が楽しみで仕方ありません」

旅のスタイルは行き当たり〝ばっちり〟

仕事柄、武田さんはこれまでにロシアやスイス、ベルギー、インドネシアなど世界約15ヶ国で書道のワークショップを行い、海外に向けて日本文化を発信してきました。文化庁の文化交流使としてベトナムに長期滞在したことも。また家族と共にプライベートで海外にバケーションに出かけることも多いそうです。旅と日常、オンとオフ、そうした切り替えをどのように行っているのでしょうか？

「あまり意識したことはありませんね。僕にとってはオンもオフもないんです。今目の前にあることを受け入れて、感じて、楽しむ。それだけです。そういう意味では、毎日旅しているのかもしれません」

ゆえに、特に行きたい国や場所があるわけではないそうです。バケーションの行き先を決めるのはたいてい奥様かお嬢様。ただし、行ったことがある場所は選ばない。そして予定を詰め過ぎない。それが武田家のバケーションスタイルだと話します。

「おそらく皆さんの想像以上にノープランです。ほとんど観光もしないし、その日何をするのかも決まっていません。ですから、渋滞でも天気が悪くても全然気になりません。渋滞だったらおしゃべりしたり、天気が悪かったらホテルでのんびりしたりと気分次第。結局がんばらないほうが楽しいんです。まさに行き当たり〝ばっちり〟です」

最近では、ご長男とアメリカ人の友人達とでアメリカ縦断の旅をしたんだとか。もちろんプランは特になし。武田さんが何も決めないぶん、ご長男がスマートフォンを駆使して毎日コーディネイターのように活躍してくれたのだそうです。

「我が息子ながら、頼もしいと感じました。何かトラブルが起きても、それを楽しみながらフレキシブルに行動していました。いつもと違う環境に身を置くことで、新しい発見もあるし、感じることも多い。それが旅の醍醐味。毎日旅するような感覚で、これからもポジティブに生きていきたいですね」

行ったことのない
初めての場所を訪れる。
何が起こるか
わからないから
旅は楽しいんです。

インタビュー後、武田さんが書いてくれた「毎日が旅」という言葉。迷いなく、直感で、さらりと書き上げてくれました。

ご長男とアメリカ縦断旅行をした際に立ち寄ったアリゾナ州北部にあるグランドキャニオンにて。

Profile

1975年、熊本県生まれ。3歳より書家である母・武田双葉に師事し、書の道を歩む。東京理科大学卒業後、約3年間のNTT勤務を経て書道家として独立。神奈川・湘南で書道教室「ふたばの森」を主宰する傍ら、斬新な個展やアーティストとのコラボレーションなど独自の創作活動で注目を集める。2013年には文化庁より文化交流使の指名を受け、日本大使館主催の文化事業などにも参加。『書を書く愉しみ』（光文社新書）、『ポジティブの教科書』（主婦の友社）、『怒らない子育て』（主婦と生活社）など著書多数。

特集1

ハワイアンアート最前線へ

抜けるような青空、風に揺れるヤシの木……。
いつも温かく旅行者を迎えてくれるハワイは、
訪れるたびに新しい「なにか」を魅せてくれる
刺激に満ちています。そんなハワイにおいて、
ここ数年、世界中から注目を集めているのが
ハワイだからこそ生まれる色彩豊かなモダンアート。
ウォールアートの街、カカアコを皮切りに
ハワイ在住の3人のアーティストを訪ねました。

文／マイコ・アイソン　Text by Maiko Izon
写真／熊谷晃、石丸智也　Photo by Akira Kumagai, Tomohito Ishimaru (Oahu)
文・写真／三谷かおり　Text & Photo by Kaori Mitani (Hawaii)

さまざまなスタイルで描き上げられた壁画が一堂に会するカカアコの中心エリア。毎年2月になると一部は塗り替えられてしまうという儚さもまた、カカアコのウォールアートの醍醐味といえるかもしれません。

ハワイの今を感じるウォールアートの街へ

Modern Art Journey in Hawaii

アラモアナの西隣にあるカカアコ地区は、ホノルル市の再開発事業特区として目まぐるしい発展を遂げ、ハワイの新たなカルチャー発信地として注目を集めているエリア。かつて倉庫や自動車工場などが並ぶグレーの建物一色だった街は、2011年に始まった「POWWOW」というアートイベントをきっかけに、カラフルなウォールアートに包まれるヒップなエリアへと生まれ変わりました。

「完成したアートを鑑賞するだけじゃつまらない。アートができあがるプロセスをもっとたくさんの人々に楽しんでもらいたい」

ハワイで活躍するローカルアーティストでもある「POWWOW」創始者のそんな思いが、多くのアーティスト達の共感を呼ぶことに。毎年2月になると、世界中からアーティストが集まり、思い思いに「ハワイ」をテーマにした壁画を描くようになりました。イベント期間中は街の至るところでライブペインティングが行われ、アーティスト達が壁画を仕上げていく様子を目の前で楽しめる仕掛けになっています。現在の壁画の数は100以上。次のハワイはカメラ片手に、「写真映え」するカカアコの街を散策してみてはいかがでしょう。

有名アーティストの作品も多く、お目当ての作品を探すのも楽しみの1つ。作品はカカアコの街全体に点在するので、シェアサイクル「biki」で巡るのもおすすめです。

どこかホッとするレトロタッチのトラベルアート

Modern Art Journey in Hawaii Oahu

『シー・オアフズ・ノースショア』。12×18インチ。オリジナルフレーム付きで90ドル。『レトロ・トラベル・プリント』シリーズより。

アーティスト

Nick Kuchar

ニック・カッチャー

nickkuchar.com

「きっかけは13年前に初めてハワイを訪れたハネムーン。僕と妻、2人揃ってハワイに一目惚れしてしまって、すぐに移住を決めたんです」

当時、アメリカ本土でインダストリアル・デザイナーとして活動していたニック・カッチャーさんにとって、ハワイでの再スタートは容易ではありませんでした。現在の活動が軌道に乗るまでは、夫婦2人でアルバイトで生計を立てていた時期もあったとか。

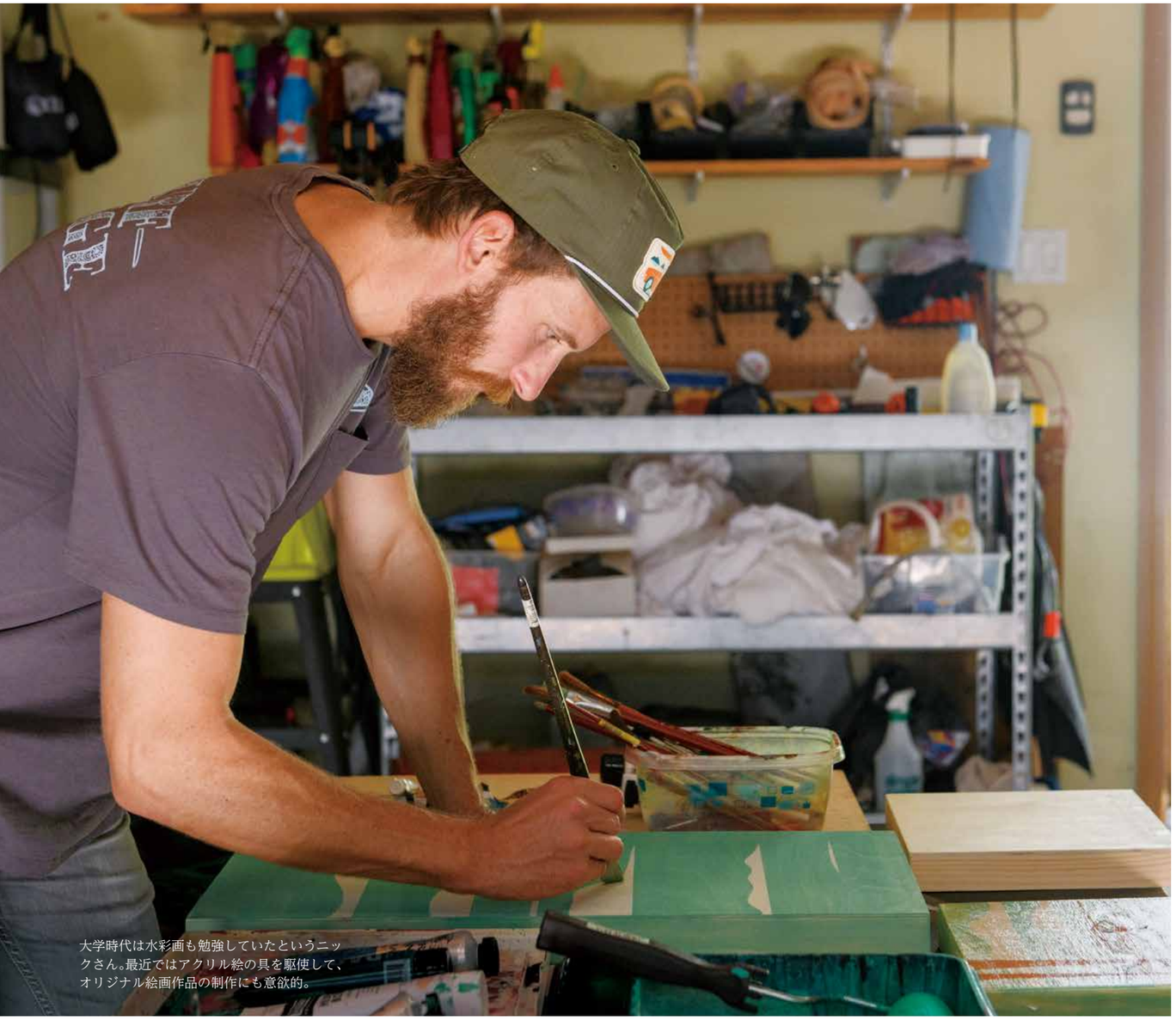
「ある日妻に、自宅に飾るアートを描いてほしいと頼まれたんです。そこで、ハネムーンで訪れた思い出の場所をモチーフに描いたのが、作品づくりのきっかけになりました」

ビンテージタッチで描かれるニックさんの作品は、ハワイに暮らす人々が愛するサーフカルチャーやアイランドライフスタイルからインスピレーションを得た「レトロハワイ」が特徴です。ワイキキやハレイワといったオアフ島内の人気エリアから離島に至るまで、ハワイの地名を冠した『レトロ・トラベル・プリント』シリーズは、もともとはニックさんにとって思い入れのある場所がモチーフ。ところが、次第にファンからのリクエストにも応えるようになったのだそうです。

「展示会やイベントに出展していると、僕の作品を見て、たくさんの人がハワイの思い出について話しかけてくれるんです。僕にとって思い出の場所が、あるロコにとっては生まれ故郷だったり、ある旅行者にとっては別の楽しい思い出があったり……。どの場所にも必ず手に取ってくれた人のストーリーがあって、ハワイの思い出と共に僕の作品を持ち帰ってもらえることがとっても嬉しいんです」

そんな中、2010年にオンラインで自身の作品の販売をスタート。大がかりな絵画作品ではなく、インテリア装飾の一部として売り出したプリント作品は、気軽に持ち帰ることができる「自分だけのハワイ」として瞬く間に大人気に。現在では、ハワイのアートギャラリーやセレクトショップ、あるいは「Tギャラリア ハワイ」のウォールアートなど、さまざまな場所でニックさんの作品を見つけることができるようになりました。

「今後はプリント作品ばかりでなく、オリジナルの絵画作品を描いていこうと思っています。今年中にギャラリーでショーができたらいいですね」



大学時代は水彩画も勉強していたというニックさん。最近ではアクリル絵の具を駆使して、オリジナル絵画作品の制作にも意欲的。

普段の作品づくりは、タブレットを使ったデジタルスタイル。絵筆のように描くことができるという高性能の専用スタイラスペンですらすらと描き上げます。

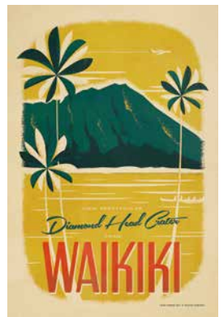
ニックさんの作品を購入するなら

グリーンルーム・ワイキキ

GREENROOM Waikiki

International Market Place 2F, 2330 Kalakaua Avenue #294, Honolulu, Hawaii 96815
+1 808-377-6766 greenroomhawaii.com

キャップやコースター、ポストカードなどは、お土産としても喜ばれる身近なアート。



右／『ワイキキ、サーフ・アット・クイーンズ』。12×18インチ。24ドル。左／『ダイアモンドヘッド・クレーター』12×18インチ。24ドル。いずれも『レトロ・トラベル・プリント』シリーズの作品。

ハワイの植物とキルト模様に魅せられて

Modern Art Journey in Hawaii Oahu

「今、作品づくりをしているから、ぜひスタジオがある自宅にいらしてください！」。そう言われて訪れたのは、ビーチタウンとして知られるカイルアの閑静な住宅地の一角。色彩豊かなハワイの植物やフルーツを使い、ハワイアン・キルトのような上下左右対称の作風で注目を浴びるブランド「ローラ・ピラー」。そのアーティストであるクリステン・フックさんは、今朝集めてきたばかりのフレッシュな植物を抱えて出迎えてくれました。

クリステンさんはカンザス生まれのハワイ育ち。学生時代はカリフォルニアの大学で映像の勉強をしていましたが、次第にスチール撮影に興味を持つようになったそうです。その後、有名サーフブランドの商品撮影を長年担当したことが、現在の創作活動へとつながることに。

結婚を機に、家族が暮らすハワイに戻ったクリステンさんが出会ったのは、季節に応じて島中に咲き誇るハワイの花々。当時ハワイアン・キルトをモチーフにしたブランドロゴを考えていたことと、長年携わっていたスチール撮影の経験とが融合し、現在のユニークな作風が生まれました。

クリステンさんの創作現場は、自然光が心地よく差し込む中庭に面したラナイ。目の前に広がる大きな中庭には、バナナの木やモンステラ、パームツリーが生い茂り、住宅街にいるとは思えないほど緑豊かな空間が広がっています。

「この庭の植物はもちろん、新鮮な花が見つかるファーマーズマーケットやチャイナタウンの市場、時には近所のお家で見かけた植物を作品に使いたくて、見知らぬご近所さんの玄関の戸を叩くこともあります」

一年中暖かいことから四季がないように思われがちなハワイですが、実はシーズンによって旬の植物やフルーツがあります。そういった季節の移り変わりを植物やフルーツを通して感じながら、次に手がける作品のイメージを膨らませるのだとか。

「作品づくりで使った植物やフルーツは、必ず名前やバックグラウンドを調べるようにしています。試行錯誤の末に今の作風に辿りつき、少しずつ植物のことを知るにつれ、作品づくりにますますのめり込むようになりました」

ハワイアン・キルトのクラシックなテイストとクリステンさんの感性によって作り上げられるモダンな作品は、ハワイらしい新しいアートのスタイルとして、あらゆる空間を華やかに彩ってくれることでしょう。

新作として発売を予定している100％シルクのスカーフ。36×36インチと52×52インチの2サイズで展開予定。

アーティスト

Lola Pilar
(Kristen Hook)
ローラ・ピラー
(クリステン・フック)
lolapilarhawaii.com

上／ボムバックスフラワー、レッドティーリーフ、エピプレムヌマウリウムの葉を使った『ミスター・ボムバックス』。8×10インチ。45ドル。下／ボムバックスフラワー、スパイダーリリー、クロトンを使った『ピンク・リム』。8×10インチ。45ドル。

「自然のものだから、必ずしも完全なシンメトリーにはなりません。でも、それがまた魅力」と愛おしそうに植物を並べるクリステンさん。

次の作品の素材として、中庭の奥に生い茂ったパームツリーを丁寧に切り出すクリステンさん。

クリステンさんの作品を購入するなら

グリーンルーム・ワイキキ
GREENROOM Waikiki
International Market Place 2F, 2330 Kalakaua Avenue #294, Honolulu, HAWAII 96815
+1 808-377-6766 greenroomhawaii.com

Where to Stay in OAHU

ホクラニ・ワイキキ・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ
Hokulani Waikiki by Hilton Grand Vacations Club

ワイキキ・ビーチ・ウォーク内に位置し、ワイキキを楽しむには最適なリゾート。ナ・ラニ・スカイラウンジ（ゲスト専用屋上デッキ）も人気です。

2181 Kalakaua Avenue, Honolulu, Hawaii 96815

●リゾートのご予約や空室情報は、クラブウェブサイトからご確認いただけます。 club.hiltongrandvacations.com

毎日の暮らしに気取らない自由なアートを

Modern Art Journey in Hawaii
Big Island

ハワイ島西海岸のカイルア・コナからファラライ山に向けて車を走らせること10分ほど。濃い緑に囲まれた中腹にホルアロアという小さな街が現れます。もともとはコナコーヒー産地の集落でしたが、1970年代頃からアーティスト達が移り住みはじめ、今では個性的なアーティストタウンとして知られています。マイク・フィールドさんのギャラリーがあるのは、そのホルアロアの中心部。約束の日にギャラリーを訪れると、サーフショーツ姿でよく日に焼けたナイスミドルが軒先を箒ではいていました。

「やあ、いらっしゃい。このギャラリーの清掃責任者で、ついでに作品も作っているマイクです」

そう茶目っ気たっぷりに迎えてくれたのは、なんとマイク・フィールドさんご本人！ 古いプランテーションハウスを改装したギャラリーには、アート作品の他に、オリジナルのTシャツやキャップ、さらにはビーチで見つけたという古いブイや流木などもディスプレイされています。スノッブなアートギャラリーというよりも、気の置けないサーフショップのような居心地のよさ。この親しみやすい雰囲気は、マイクさんのアートに対する哲学そのものといっていいかもしれません。

「例えばTシャツやキャップなら気軽に身につけられるし、サーファーならボードは毎日使うはず。そこに自分のアートやデザインを取り込めば、誰もがマイク・フィールドの世界を楽しめるってわけです」

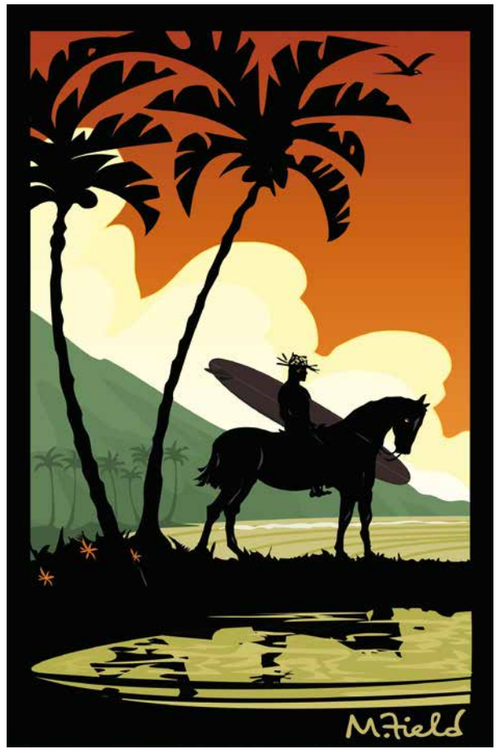
マイクさんの独創的な色使いや対象物のデフォルメはマティスの影響から。女性をモチーフにするのはゴーギャンからのインスピレーション。そして広大な景色の中に人物や人工物をコンパクトに描くことで、自然の偉大さを表現するのは葛飾北斎の浮世絵に感銘を受けたもの。また作品の中にしばしば登場し、ロゴマークにもなっている白い鳥は、ハワイのカヌーの漕ぎ手達が陸地への指針とする海鳥なのだそうです。

「嵐がやってきそうな海の上でも、この鳥を見つければ陸地に導いてくれる。いわば希望の象徴なんです」

マイクさんの話を聞いていると、彼はいつも新しい材料やアイデアを探し求め、発見しているように思えてきます。まるで小さな子供が庭の枯れ枝で秘密基地を作るかのように、その様子は実に楽しそう。仕事は遊び。そんな自由でゆるやかな空気が、マイクさん本人にも、ギャラリーにも、そしてもちろん作品にも漂っています。

自らも優れたカヌーパドラーにしてサーファーでもあるマイクさんの作品は、海をモチーフにしたものがメイン。コーヒー畑に囲まれた静かなアトリエが創造の現場です。

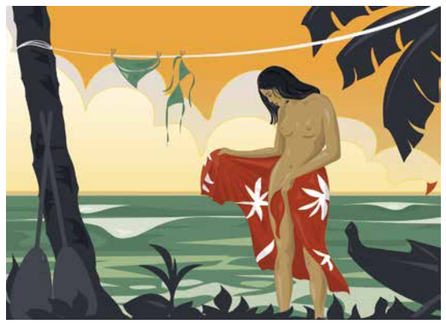
キャンバスに描く前に、スケッチで理想の構図を模索。くっきりとしたラインはデジタル処理で仕上げるそう。



右／『パニオロ・サーファー』。パニオロとはハワイアン・カウボーイのこと。左／『クア・ベイ』。ハワイ島西側にあるビーチ。北斎風に小さく描かれたハワイアンカヌーや白い鳥が特徴。スモールプリント130ドル、ラージプリント450ドル、キャンバス3,800ドル。

アーティスト

Mike Field
マイク・フィールド



『パウハナ』。ハワイ語で「仕事の後」を意味する作品です。海から上がって着替える女性はどこかゴーギャンを思わせます。スモールプリント130ドル、ラージプリント450ドル、キャンバス3,800ドル。

マイクさんの作品を購入するなら

マイク・フィールド・ギャラリー
Mike Field Gallery

76-5936 Mamalahoa Highway, Holualoa, Hawaii 96725
+1 808-315-8114 mfield.com

Where to Stay in BIG ISLAND

オーシャン・タワー・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ
Ocean Tower by Hilton Grand Vacations Club

ヒルトン・ワイコロア・ビレッジ内に誕生した最新のクラブリゾート。ラナイから望む美しい景色はハワイ島らしい“ビッグ”な感動に満ちています。

69-425 Waikoloa Beach Drive, Waikoloa, Hawaii 96738

●リゾートのご予約や空室情報は、クラブウェブサイトからご確認いただけます。 club.hiltongrandvacations.com

ZACHARY STOVALL

特集2

カリブ海の新しい我が家バルバドスへ

カリブ海諸島の最東端に浮かぶバルバドスは、島全体が珊瑚礁でできた小さな島国。マリンブルーの海とピンクゴールドの砂浜に縁取られた美しい島は、プランテーション時代から、カリブ海屈指のリゾートとして発展してきました。次のバケーションは、まだ見ぬ魅惑の島で。

Column for Club Traveler

FROM OVERSEAS

現地発 海外情報

New York
ニューヨーク

日本に上陸する日も近い!? 写真映えするNY最新スイーツ

Text by Chiyo Yamauchi（ニューヨーク在住）

01

02

03

スイーツのトレンドが次から次へと生まれるニューヨーク。近く訪れる予定のある方はもちろん、とにかく最新情報を知りたいという方にも必見のスイーツを3つご紹介しましょう。

最近話題の新作スイーツに共通するのは「食べておいしく、撮って楽しい」こと。それを象徴しているのがマンハッタンにある「スティック・ウィズ・ミー」。数あるチョコレートショップの中でもここの手作りボンボンが支持されている理由は、なんといってもその芸術的な美しさ。「食べられるアート」と高く評価されています。オーナーのスザンナさんはミシュランの三ツ星レストラン「パ・セ」でショコラティエを務めていた実力者なので、その味もお墨付きです。

続いてご紹介する新ジャンルのスイーツ「クッキー・ドゥー」は、いわゆる焼き上げる前のクッキー生地のこと。なんでも多くのアメリカ人は、子供の頃に待ちきれなくて焼く前のクッキー生地を食べちゃった経験があるのだとか。そんなノスタルジックな思い出も人気を後押ししているよう。ちなみに「クッキー・ドゥー」は、生卵を使わず、小麦粉は全て加熱処理されているのでそのまま食べても安全とのことです。

またアジア系スイーツも人気で、日本でお馴染みのあのスイーツも例外ではありません。ただし、独自のツイスト（ひねり）を加えるのがニューヨーク流。たい焼きもご覧の通りです。口が開いた状態で焼き上げられたたい焼きには、あんこではなく山盛りのソフトクリームとフルーツをトッピング！　おいしいだけでなく撮って楽しいスイーツは、帰国後のお土産話になること請け合いです。

01／
スティック・ウィズ・ミー
Stick With Me
swmsweets.com
ボンボンの味は模様によって異なり、食べてからのお楽しみというワクワク感も人気。ギフトやお土産にも最適。6個入り25ドル～。

02／
クッキー・ドゥー
Cookie DŌ
cookiedonyc.com
SNSを活用したプロモーションで瞬く間に話題に。グルテンフリー、ビーガンなどのオプションもあります。1スクープ4ドル～。

03／
タイヤキ・ニューヨーク
TAIYAKI NYC
taiyakinyc.com
マンハッタンとブルックリンの他、マイアミやカナダのトロントにも進出。ソフトクリーム入りのたい焼きは1個8ドル～。

英国統治時代のコロニアルな面影と南国カリブの陽気さが融合した島。

バルバドスの言葉で「チャテルハウス」と呼ばれる可動式住宅は、プランテーション時代の名残。現在はカラフルに塗装され、写真映えポイントとして人気です。

GAVIN HELLIER/ROBERT HARDING

zstock / Shutterstock.com

ビビッドに彩られたチャテルハウスが海沿いの漁村に並ぶ様は、バルバドスの典型的なランドスケープ。

バルバドスと聞いて、すぐにその場所や風景が思い浮かぶ日本人は少ないかもしれません。ところが、アメリカ本土やヨーロッパ、特にイギリスの人々にとっては、バルバドスは古くから馴染みのあるカリブ海でもっとも身近なリゾート・アイランドの1つです。かつてイギリス領だった名残から「リトル・イングランド」とも呼ばれ、公用語は英語。カリブ海諸国の中でも生活水準が高く、それゆえ治安がいいことも、人気リゾートとして発展した大きな理由といえるでしょう。

バルバドスがあるのは、カリブ海の最東端。島の東側には見渡す限りの大西洋が広がり、遥かアフリカ大陸から運ばれてくる暖かな風を受け止めています。年間平均気温は26度。その温暖な気候に引き寄せられるように、早くも18世紀にはアメリカ本土から療養に訪れる人が後を絶ちませんでした。その中には、後にアメリカ合衆国初代大統領となる、あのジョージ・ワシントンもいたほどです。ちなみに島にはワシントンが1751年に滞在した邸宅が博物館として残され、プランテーション時代のバルバドスの暮らしを今に伝えています。

島の面積は約430㎢。ちょうど日本の種子島ほどの広さですが、その魅力は実にバラエティに富んでいます。

ZACHARY STOVALL

photosounds / Shutterstock.com

WALTER NIEDERBAUER/GETTY IMAGES

左／緑豊かな内陸の田舎道を走るドライブは、バルバドスで古くから人気の過ごし方。上／大英帝国時代を偲ばせるビクトリア様式の国会議事堂。下／島固有の野鳥、バルバドス・ブルフィンチ（ウソの一種）。

東海岸は北大西洋からのうねりがコンスタントに押し寄せるサーファー達の楽園。一方、西海岸はターコイズブルーのカリブ海を見下ろすリゾートエリア。その穏やかな海と静かな雰囲気に魅せられたセレブリティが密かに通う「お忍びエリア」としても有名です。別名は「プラチナコースト」。その名の通り、バルバドスの代名詞ともいえる黄金色の砂浜がどこまでも続き、今も昔も訪れる人々を虜にして離さないのです。

カメラ片手に歩きたい色鮮やかな歴史の島

さて、バルバドスに来たら一度は訪れておきたい場所が、首都のブリッジタウンです。17世紀中頃から独立する1966年までイギリスに統治されていたため、街並みはイギリスのジョージアン建築に南国カリブの建築様式が融合した「カリビアン・ジョージアン」と呼ばれる独特のスタイル。いかにもクラシックな英国風建築の中に、カラフル&ポップな建物が点在する街は、どこを切り取ってもフォトジェニックです。

緑と白の配色が美しいチェンバレン橋を渡り、独立記念アーチをくぐった先には、島民憩いの独立公園が控え、さらにその先へ10分も歩けば穏やかなブラウンズビーチが広がっています。街から徒歩圏にもかかわらず、色とりどりの熱帯魚が泳ぎ、時にはウミガメに出会えることも。ここからカタマランボート（双胴船）に乗って、ちょっとしたカリブ海クルーズに出かけるのもおすすめです。

街なかに戻ったら、カラフルな中心街を散策しましょう。街を横切るよう

「ヒルトン・グランド・バケーションズ・アット・ザ・クレーン」が位置するのは、島南東部に広がるクレーンビーチを望む高台の一等地。

ピンクゴールドの砂浜と深いブルーをたたえたカリブ海、誰もが憧れる永遠の楽園。

にコンスティチューション川が流れ、そこには何本もの歴史的な橋が架かっています。ブリッジタウンという名前は美しい橋が多いことから付けられたのだとか。街を歩けばすぐに、17世紀に始まり18世紀に再建されたセント・マイケルズ大聖堂や、大英帝国時代の名残をとどめる国会議事堂といった歴史的建造物に出くわすことでしょう。周辺は「ブリッジタウン歴史地区とギャリソン（守備要塞）」として、ユネスコの世界文化遺産にも登録されています。リゾートに籠もりっきりのステイも素敵ですが、時には気分を変えて、カリブ海の歴史を感じる街を散策してみてはいかがでしょうか。

カリブ海の一等地に我が家がある喜び

バルバドスの特産品といえば、サトウキビを原料に蒸溜したラム酒。サトウキビのプランテーションを主産業に発展してきたバルバドスにとって、ラム酒は過去と現在をつなぐ重要な存在です。1874年に国会議事堂が完成する前までは、ラム酒酒場が政府の集会場として機能していたほどです。島北端にあるセント・ニコラス・アビーは、サトウキビ農園主の元邸宅。1658年に建てられた建物は、北米では3つしか残されていないジャコビアン建築の1つであり、周辺にはサトウキビのプランテーションが当時のままに広がっています。ここで味わうべきは、農園内で収穫したサトウキビを使い、伝統的手法で造ったラム。気に入ったらその場で購入できるので、バルバドス土産としても重宝します。

また金曜日の夜は、島南部のオイスティンズ魚市場近くで開催される「フライデー・ナイト・フィッシュ・フライ」へ直行。ずらりと並んだ屋台の前では、ローカルもツーリストも入り交じり、皆で新鮮な魚料理を食べ、大いに飲み、夜更けまで踊るのです。何を注文したらいいのか迷ったら、ご当地名物のトビウオやマカロニパイを選べば間違いありません。

島でのステイは、カリブ海エリアで初のクラブリゾートとなる「ヒルトン・グランド・バケーションズ・アット・ザ・クレーン」へ。もしかしたら「ザ・クレーン」をご存知の方がいるかもしれません。それもそのはず、前身は1887年に創業した、カリブ海最古の名門リゾート。目の前にはピンクの砂浜で有名なクレーンビーチが広がり、約16万㎡の敷地と巨大プール、受賞歴のある7つのダイニングなど豊富なアメニティでゲストを出迎えます。「ザ・クレーン」に滞在すれば、なぜバルバドスが古くからリゾートとして発展し、なおかつ多くのセレブリティを魅了してきたかがおわかりいただけることでしょう。

PHOTO CENTRAL/ALAMY

THE PALMER/GETTY IMAGES

上／バルバドスのラム酒は、バーボン樽などで長期熟成され出荷の時を待ちます。下／日本人の舌にもよく合う、バルバドス名物の焼き魚。レモンをぎゅっと搾って召し上がれ。

クレーンビーチは長年にわたって珊瑚礁が削られてできたために、鮮やかなピンク色をしています。太陽が照りつけると、目に眩しいくらいです。

Filip Fuxa / Shutterstock.com

Where to Stay in BARBADOS

ヒルトン・グランド・バケーションズ・アット・ザ・クレーン

Hilton Grand Vacations at The Crane

1887年創業。島随一の美しさを誇るクレーンビーチを一望するカリブ海最古のリゾートです。オープンは4月。すでに予約を開始しています。

Crane, St. Philip BB18079

●リゾートのご予約や空室情報は、クラブウェブサイトからご確認いただけます。 club.hiltongrandvacations.com

HGV Recommend

至極のリゾートコレクション

Collection 03

ORLANDO

オーランド

HILTON GRAND VACATIONS CLUB AT TUSCANY VILLAGE

ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ・アット・タスカニー・ビレッジ

テーマパーク王国を巡る旅にふさわしい理想の滞在拠点

その名の通り、イタリア・トスカーナ地方を思わせる空間設計が印象的。刺激的なオーランド観光と同様、大人も子供も思わずワクワクしてしまう多彩な魅力が詰まっています。

木々が青々と茂った庭をいつでも散策できる贅沢は、このリゾートに滞在するゲストだけの特権。夕方ともなれば暑さが和らぎはじめ、心地よいそよ風が吹き抜けていきます。

ゲストを虜にする抜群の環境と利便性

「もし、家族でフロリダのオーランドへ出かけるのなら、タスカニー・ビレッジでの滞在がおすすめですよ」

しばしばこうしたご意見を、旅慣れたクラブメンバーの皆様からお聞きします。

ご存知の通り、オーランドはディズニー・ワールドやユニバーサル・スタジオをはじめ、大小さまざまなテーマパークが集まる一大アミューズメント・シティ。お子様連れで余暇を楽しむのにこれほど恰好の場所はないとあって、例年7000万人を超える観光客がこの街を訪れています。

「ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ・アット・タスカニー・ビレッジ」は、そんなオーランド市街にある4つのクラブリゾートのうちの1つ。目の前に湖が広がる絶好のロケーションの中、イタリア・トスカーナ地方の雰囲気をたたえた建築や庭園が、その湖を囲むように配されています。

特筆すべきは、その優れた周辺環境と利便性の高さでしょう。前述した主要なテーマパークへのアクセスも、往復10ドルの有料シャトルバスを利用すれば極めて容易。隣接する「オーランド・バインランド・プレミアム・アウトレット」へは、ルームキーを使って専用ゲートを抜ければ、そのままお散歩気分で出かけられます。さらに徒歩圏には「パブリックス」というスーパーマーケットがあり、食料品の調達に便利。敷地内には、その日の気分に合わせて選べるいくつかのレストランが備えられ、近隣のステーキハウスや南米料理店でもディナーを楽しめます。

敷地内にある7つのヴィラには、それぞれイタリアにちなんだ名前が付けられています。室内には落ち着いた配色の調度品が並び、まるで我が家にいるかのような居心地のよさを感じさせます。

広々とした寝室。ふかふかなキングサイズベッドが旅の疲れを癒やします。

滞在そのものが極上のエンターテイメント

テーマパーク巡りで非日常の世界を存分に味わった後は、リゾートにこもって、ゆったりと過ごす時間を持ってはいかがでしょう。「ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ・アット・タスカニー・ビレッジ」には、訪れた人をホッとさせる快適な空間や、煩わしさや不便さを感じさせない豊富なアメニティが揃っています。

部屋タイプは、それぞれグレードの異なる、スタジオ、1～3ベッドルーム・スイートの計7タイプ。スタジオ以外にはフルキッチン、洗濯機、乾燥機が完備され、ロングステイにも対応する設計です。また、2つの温水プールやお子様用の水遊びスペースに加え、気軽に汗を流せるフィットネスセンターといった施設の充実ぶりにもご満足いただけるでしょう。

そして、このリゾートを訪れたら、工夫を凝らしたアクティビティの数々にもぜひ挑戦してください。定番のヨガやズンバといったプログラムをはじめ、シネマナイト、ワークショップなど、多彩なイベントが日替わりで開催されています。滞在中、各種スポーツやゲーム大会に参加して、心身のリフレッシュを図ってみるのも一興です。

まさに、大人から子供までが共に憩い、安らぎ、楽しめる要素がいっぱい。何よりも訪れる人を優しく包み込むスタッフの細やかなホスピタリティが、このリゾートの人気を支えています。

ビリヤード台など、リゾート内には日がな1日楽しめるレクリエーション設備が満載。

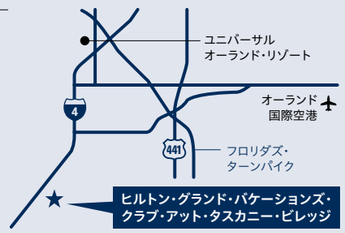
お子様連れの滞在に配慮したサービスが充実。キッズクラブも完備。

広大な敷地内には、庭園や池、噴水が配置され、美しい景観を作り出しています。

Information

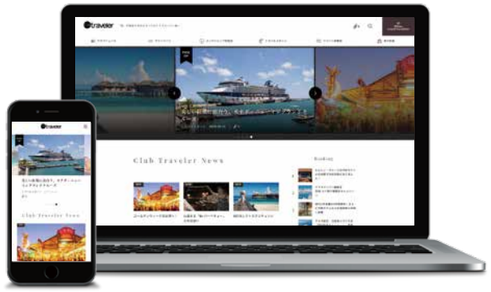
ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ・アット・タスカニー・ビレッジ
Hilton Grand Vacations Club at Tuscany Village
8122 Arrezzo Way,
Orlando, Florida 32821
+1 407-465-2600

アクセス／
オーランド国際空港から14.5マイル（約23km）



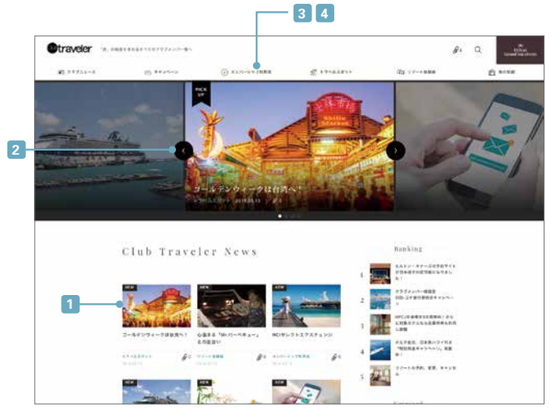
Club Traveler Website

ウェブサイトと メールマガジンの デザインを一新



さまざまな旅の情報をいち早くお届けするクラブトラベラーのウェブサイトがリニューアルしました。
また、クラブメンバーの皆様が登録されているメールアドレスに、
毎月フレッシュな更新情報をお届けするメールマガジンも、このたびデザインを一新。
お目当てのニュースをさらに見つけやすくなったウェブサイトを、ぜひご活用ください。

TOP画面のデザインが変わり ユーザビリティもアップしました



1 更新された最新記事を トップ画面に配置

アクセスいただいた時点で「おすすめの最新記事」がひと目でわかるようピックアップ。また、その他の新しい記事にも「NEW」のタグを付けました。

2 横スライドで 簡単にセレクト

ピックアップしたいくつかの最新記事は、横スライドが可能です。気になる記事を選んでクリックすれば、簡単にそのページへアクセスできます。

3 カテゴリー名を よりわかりやすく変更

各カテゴリー名を一部変更。「メンバーシップ利用法」や「旅の知識」など、目的の情報が、より探しやすくなりました。

4 ナビゲーションメニューで カテゴリー選びが容易に

各カテゴリーのナビゲーションメニューをトップ画面上部に追加。モバイルは右上のハンバーガーアイコンから選べます。

毎月のメルマガも カラフルなデザインに

毎月、皆様にお知らせが届くクラブトラベラーのメールマガジン。こちらも、より見やすく記事をお楽しみになれるようデザインを変更しました。

メールアドレス更新のお願い

メールマガジンでは、ウェブサイトに掲載された最新記事をはじめ、重要なお知らせをお届けすることがございます。ご登録のアドレスが古い場合は、大切な情報がお受け取りになれませんので、この機会にぜひご登録状況をお確かめください。

クラブメンバー様のバケーションが、より充実したものになりますように。
Club Travelerを上手に使いこなして、次の旅のプランづくりにお役立てください。

clubtravelerjapan.com

Column for Club Traveler

TIPS

旅に役立つヒント集

旅の達人が教える ESTAの失敗しない申請法

ハワイを含むアメリカ合衆国渡航時に、ビザなしで入国できる電子渡航認証システム、ESTA（エスタ）。
いざ申請するとなると、戸惑うことも多いESTAについて、トラベルライターの石原有起さんに教えてもらいました。

ESTA公式 オンライン申請サイト
（日本語あり）
esta.cbp.dhs.gov/esta

Point

1. 申請料は1人につき **14ドル**
2. 乳児やお子様も含め、**渡航者全員**の申請が必要
3. 遅くとも**出発の72時間前**までに申請すること
4. 申請代行会社を利用すると **数千円〜数万円** かかることも
5. 申請料のお支払い方法は **クレジットカード**と **ペイパル**
6. 上記の **ESTA公式サイト** からの申請がおすすめ

（2019年4月現在）

アメリカへのご旅行をお考えの皆様、「ESTA」の申請はお済みですか？ 2009年1月から、日本人が観光やビジネスなど90日以内の短期滞在を目的としてアメリカを訪れる場合、事前にESTAの認証を受けることが必要になりました。申請はESTAの公式サイト（上記）から簡単に行え、日本語表示も選べますが、回答は全て英語。指示に従い、パスポート情報や便名、滞在中の住所などを入力し、質問には「はい」か「いいえ」で答える形式となっています。

ただし最近では、無許可の第三者があたかも公式サイトのようなウェブページを立ち上げ、高額な情報料や申請手数料を請求してくるケースが増えています。ネット環境がないといった理由で代行申請をお考えの場合は、くれぐれも信頼のおける代行会社や旅行代理店をお選びください。別途手数料はかかりますが、高額請求や個人情報流出を避ける最善の手段です。

ESTAの認証は一度受けると2年間有効。期間内ならアメリカへの再入国が可能です。とはいえ、パスポートの有効期限が切れてしまったり、婚姻などでパスポートの内容が変更されたりした場合には再申請が必要です。アメリカを訪れる際は余裕を持って、早めに申請を行うように心がけましょう。

旅の達人
石原 有起 さん
Yuki Ishihara
ビューティ＆トラベルライター。女性誌やWEBを中心に、旅行および美容関連の記事を寄稿。取材・執筆の他、TV・ラジオ出演、講演など多方面で活動中。現在は“旅＝楽しむだけでなく、美を磨くためのエッセンス”と捉え、旅先で美容スポットを体当たりで巡る取材を多く行う。
yukiishihara.com

クラブトラベラーでは、クラブメンバー様の旅の思い出や素敵な体験を募集しています。
インタビューにご協力いただける方は、ぜひ **feedback@clubtravelerjapan.com** までメールをお寄せください。

クラブメンバーの皆様から届いた
バケーション・メモリーをご紹介します。

フロム クラブメンバーズ
From Club Members Vol.3

「家族で行動する濃密なバケーションが1年の生活に組み込まれています」

上／カリフォルニア州アナハイムのディズニーランド・リゾートにて。下右・下中央／リゾートでは家族団らんの時間をたっぷりと満喫しました。

小池信行 様

オーナー歴：2010年～

ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ・アット・マーブリサ
［カリフォルニア］

ハプニングさえも楽しむ カリフォルニアでの感動体験

キングス・ランド™を皮切りに3年前にはザ・グランド・アイランダーも追加購入された小池信行様。意外にもホームリゾートでの滞在は1回だけ。ハワイの旅は数えるほどだそうです。

「例年、休暇の時期が直前までわからないため、ホームウィーク予約が難しいんです。また我が家には長男と3人の娘がいて、家族6人で3ベッドルームが必須。おのずと選択肢がぐっと狭まり、ハワイ以外のクラブリゾートやRCIの利用が多くなるんですよ」

そんな小池様が昨年のお正月に訪れたのはアメリカ西海岸。白い砂浜と青い空が眩しいカールスバッドでした。

「最寄りのサンディエゴ空港は日本からの直行便があるうえ、入出国に時間がかからず快適でした。リゾートの環境も抜群。ロスとサンディエゴの間にあるので2つの都市をそれぞれ2日間程度観光しました。カールスバッドでの開放的なひとときと相まって、とても楽しかったですよ」

そもそも小池様の旅のスタイルは、「予定を立てない派」。たまたま見つけた美しい風景に時が経つのも忘れて見入ったり、ふらりと立ち寄ったレストランで予想外の美味に感動したり、予期せぬ出来事がバケーションをより味わい深いものにしてくれると語ります。

「この界隈は食事がとてもおいしく、特にウニが絶品。しかも安いんです。海沿いのとある和食レストランで、おせち料理をいただくこともありました。そういうサプライズに出合えることも旅の醍醐味だと思うんですよね」

ご家族で過ごす年に1～2度の濃密な時間は、もはや人生の一部。「もう少しこの旅を続けたい」と思いながら日常へと還る瞬間が、小池様をまた次のバケーションへ誘うのかもしれません。

清水敏彦 様　治美 様

オーナー歴：2013年～

ホクラニ・ワイキキ™・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ®
［オアフ島］

高齢者にも優しい ハワイで感じたおもてなしの心

清水様ご夫妻がバケーション・オーナーシップを取得したのは6年前のこと。「どうせなら非日常を体験したい」と、ハワイのリゾート購入を決断されました。以来、旦那様の敏彦様は、お嬢様やご友人と毎年のようにオアフ島へ。3年目からは奥様の治美様もその輪に加わりました。

「当初あまり乗り気ではなかった妻のほうが、今はむしろハワイにハマっています」と敏彦様。一方、治美様は「キッチン付きだから自分達のペースで食事を作れるのがいいんです」と、リゾートの魅力を語ってくださいました。

そんなお2人が一昨年に計画したのは、お母様や叔父様、叔母様を招待した6人旅。83歳のお母様を筆頭にシルバー世代が中心のバケーションでした。

「事前に成田空港とホノルル空港で車椅子の貸し出しをお願いし、滞在中もレンタルを手配しました。高齢者を伴う旅はとかく移動が大変なものですが、現地では誰もが親切に対応してくれて。ハワイは街全体がバリアフリー。おもてなしの心であふれています。どこにでもアクセスできるホクラニの立地も今回の旅にはぴったりでした」

また、旅先ではどなたともすぐに仲良くなってしまうという朗らかな治美様。先日も、とあるクルーズ旅行で驚きの出来事を体験されました。

「たまたまテーブルを共に囲んだ他の乗客の皆さんと意気投合したんです。会話を重ねるうちに、実はそこにいた皆さんが全員HGVのクラブメンバーだとわかって（笑）。こんなこともあるんですね。本当にびっくりしました」

さまざまな人とのご縁やふれあいも旅のスパイス。非日常体験を求めて、これからもお2人のバケーションは続きそうです。

「街、風景、人々、全てが素晴らしい夢の場所です」

上／潜水艦に乗る前に記念撮影。下中央／お出かけの際にタクシーの配車を依頼したところ、やって来たのはリムジン。粋な計らいに感動しつつ、豪華なリムジンでの移動を楽しまれました。下左／お母様がお使いの車椅子は、ホクラニ近くでレンタルしたもの。1日20ドルからと、料金もリーズナブル。

ニューヨーク(イメージ)

マートルビーチ(イメージ)　©Hilton Grand Vacations Inc.

ザ・レジデンス・バイ・ヒルトン・クラブ

オーシャン・タワー・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ

シカゴ(イメージ)

オーシャン・タワー・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ

Hilton Grand Vacations

TODAY & FUTURE

ヒルトン・グランド・バケーションズの今とこれから

ますます広がる、HGVクラブリゾートのネットワーク

よりよいバケーションライフをお届けするために

多彩な旅の選択肢と上質なバケーションライフの提供。そのミッションを叶えるため、ヒルトン・グランド・バケーションズは、新たなリゾート開発やサービスの向上、パートナーシップの強化に取り組んでいます。

一昨年、設立から25周年を迎えたヒルトン・グランド・バケーションズでは、特別ツアーや各種プレゼントキャンペーンなどを実施。クラブメンバーの皆様へさまざまなベネフィットをご提供する機会を設けてきました。おかげさまで、全世界におけるクラブメンバー様が30万組を超え、日本でも6万組以上の皆様にヒルトン・グランド・バケーションズをご愛顧いただいております。そこで、アジア圏のクラブサービスでシニアディレクターを務める足立泰氏に、これまでの歩みと今後の展望を聞きました。

「振り返れば2018年は、クラブメンバーの皆様へより充実したバケーション・エクスペリエンスをお届けすべく、実に多くのクラブリゾート開発に着手してきました。とりわけエポックメイキングなのは、日本初のクラブリゾートとしてオープンした『ザ・ベイフォレスト小田原・バイ・ヒルトン・クラブ』でしょう」

相模湾を望む風光明媚なロケーションに建てられたのはメゾネットタイプのコテージ。開業から1年余りを経た現在でも多くのお問い合わせやご予約をいただき、今後はゼロベースから新設計される第2期ヴィラの建設も予定されています。

「他にも、沖縄の瀬底島では2020年のオープンを目指して新リゾートの建設が急ピッチで進められています。これまでは、さまざまな旅のニーズにお応えするため提携リゾートの拡充に努めてきました。今後は国内外を問わず、これまで以上に自社リゾートの充実に力を入れていく方針です。豊富な選択肢の中からお好みのリゾートを探し、訪れ、滞在する楽しみを、クラブメンバーの皆様に味わっていただきたいと思っています」

クラブサービス・アジア シニアディレクター
足立 泰 Yasushi Adachi

続々とオープン、または登場予定の新リゾート。その多くはヒルトンホテルとの連携がキーとなっているようです。まさに「タイムシェアとホテルの融合リゾート」。両者の強みを組み合わせることで相乗効果が生まれると、足立氏は語ります。

「言うなれば、ハイブリッド型のリゾートです。ホテルのアメニティをリゾートと共有させることで、使い勝手のよさやハイクオリティなサービスが提供できると考えています」

また同様に、利便性のアップという点では、既存施設のリノベーションにも意が注がれています。

「例えば、日本のクラブメンバー様に人気のハワイでは、2008年に誕生したグランド・ワイキキアン™が初の大規模改修に入りました。また、ラグーンタワーでも、窓ガラスが遮熱性・遮音性の高いペアガラスに交換されるなど、大がかりなメンテナンスが始まっています。新しいリゾート・ポートフォリオのご提供だけではなく、既存リゾートの品質向上にも努めています」

さらには、提携企業とのパートナーシップ強化によって、より気軽にバケーションを楽しめる環境づくりも企画されています。具体的には、クラブメンバー様向けの特別価格航空券の拡充や、リゾートの予約と同時に航空券も手配できるしくみの構築などがパートナー企業との間で協議されているのだとか。

旅を豊かにする施策が、ハードとソフトの両面から進行しています。さらなる前進を続けるヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブの挑戦に、これからもどうぞご期待ください。

HGV New Resort Schedule

1	2018年4月	ザ・ベイフォレスト小田原・バイ・ヒルトン・クラブ(日本)
2	2018年9月	ザ・レジデンス・バイ・ヒルトン・クラブ(ニューヨーク)
3	2019年1月	オーシャン・タワー・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ(ハワイ島)
4	2019年1月	ヒルトン・グランド・バケーションズ・アット・ザ・クレーン(バルバドス)
5	2019年秋冬	ザ・クイン・セントラル・パーク・バイ・ヒルトン・クラブ(ニューヨーク)
6	2019年予定	オーシャン・エンクレーブ・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ(サウスカロライナ・マートルビーチ)
7	2019年予定	ラ・パシフィカ・ロスカボス・バイ・ヒルトン・クラブ(メキシコ)
8	2019年予定	ヒルトン・グランド・バケーションズ・クラブ・シカゴ・ダウンタウン／マグニフィセントマイル
9	2020年予定	リバティ・プレイス・チャールストン・バイ・ヒルトン・クラブ(サウスカロライナ・チャールストン)
10	2020年予定	瀬底島のクラブリゾート(沖縄)
11	2021年予定	マウイ・ベイ・ヴィラ・バイ・ヒルトン・グランド・バケーションズ(マウイ島)
12	2022年予定	オアフ島のクラブリゾート(ハワイ)

ヒルトン・グランド・バケーションズが世界各地に展開するクラブリゾートは、その最高品質に加え設備やアメニティ、卓越したサービスによって、トリップアドバイザーの「エクセレント認証」や「殿堂入り」など、さまざまなアワードを受賞しています。

▶詳細はこちらから
club.hiltongrandvacations.com/ja/club-membership/club-overview/awards-honors

●リゾートのご予約や空室情報は、クラブウェブサイトからご確認いただけます。　club.hiltongrandvacations.com

Club Information
for Club Members クラブ・インフォメーション

2019 SPRING FROM Hilton Grand Vacations Club

Category:
Resort Service Others

新しい施設やサービスのご案内、バケーション・オーナーシップについてのお知らせなど、旅を豊かにするさまざまな情報をお届けします。

Service 新機能「クラブナビゲーター」をご活用ください

皆様、クラブウェブサイトを上手に活用されていらっしゃいますか？
近年、ウェブサイトやモバイルアプリの利用率が高まり、
オンライン経由でのご予約やポイント利用が全体の50%まで増加しています。
そこで、クラブウェブサイトをより便利に、より快適にお使いいただくため、新ツール「クラブナビゲーター」を導入しました。

Point

**「クラブナビゲーター」は、インタラクティブ動画とイラストで、
メンバーシップの活用方法をわかりやすく解説する新たなオンラインツールです。
ご予約サイトの具体的な操作方法や、予約の種類とヒント、
ポイントと管理費のお支払いなどの情報が、直感的にチェックできます。**

Desktop

ぜひご活用ください！

ハンバーガーアイコンをタップ

Mobile

クラブナビゲーターは、クラブウェブサイトとモバイルアプリの「サポート」からご利用いただけます。
また、詳細はクラブトラベラーサイトの記事（メンバーシップ利用法）でもご紹介しています。

▶ お問い合わせは
クラブトラベラーサイト clubtravelerjapan.com
クラブウェブサイト club.hiltongrandvacations.com

Others Share Your Aloha!「ご友人紹介プログラム」で大切な方に「暮らすようなバケーション」をおすすめください

クラブメンバーの皆様に、ご友人やご家族、ご親戚などをご紹介いただくのが「ご友人紹介プログラム」です。
1組様ご紹介につき最大6,100ボーナスポイントを差し上げます。
もちろん、ご紹介いただいたご友人にも説明会ご参加特典や、優待料金での体験宿泊プランなど
お得なプレゼントをご用意しています。

クラブメンバー様特典内容

Step 1
ご友人を
ご紹介登録
1件につき **100** ボーナスポイント

Step 2
ご友人が
説明会ご参加
1,000 ボーナスポイント

Step 3
ご友人が
ご契約
5,000 ボーナスポイント

メンバー様特典 最大合計

1組様ご紹介 **6,100** ボーナスポイント（$610相当）

2組様ご紹介 **12,200** ボーナスポイント（$1,220相当）

※ご友人紹介プログラムの特典は、2019年1月1日以降に初めてお申し込みいただいたご新規「紹介登録」分より適用されます。
　過去にご紹介、またはヒルトン・グランド・バケーションズのバケーション・オーナーシップ販売説明会に参加されたご友人分は対象外です。
※また特典進呈においては、ご紹介プログラムおよび販売説明会ご参加の特典進呈条件を全て満たしていらっしゃる場合に限ります。
　なお、ご契約時のボーナスポイント最大進呈は、1年間に2組様までとなりますのであらかじめご了承ください。

ボーナスポイントは大変便利なポイントです

リゾートご宿泊 **年間管理費お支払い** **RCIリゾートご宿泊**

にご利用いただけます。
ご紹介は今すぐ専用ダイヤルまたは、クラブウェブサイトの専用フォームから

▶ ご紹介・お問い合わせは
専用ダイヤル 0120-941-336 営業時間：月～金 午前9:00 ～午後7:00 土日祝 午前9:00 ～午後6:00
クラブウェブサイト club.hiltongrandvacations.com/ja/club-membership/owner-referral

Service

ご好評につき、期間が延長されました!「デルタ航空」ホノルル線の特別料金キャンペーン

デルタ航空ホノルル線の特別料金キャンペーンが、ご好評につき、ただいま2020年3月の日本出発分まで延長されています。対象クラスは、ビジネスクラス、コンフォートプラス、エコノミークラス（計8種）。ハワイへのバケーションはぜひデルタ航空をご利用ください。

キャンペーンの詳細は

クラブトラベラーサイト　clubtravelerjapan.com
「キャンペーン」から検索いただけます。

クラブウェブサイト　club.hiltongrandvacations.com
ログインのうえ「メンバーオファーとプロモーション」→「優待情報」からご確認いただけます。

Service

バケーションの幅が広がり、使えば使うほどお得「ヒルトン・プレミアムクラブ・ジャパン（HPCJ）」入会キャンペーン

クラブメンバー様限定で、日本国内や韓国の対象ホテルをスペシャルプライスで利用できる「ヒルトン・プレミアムクラブ・ジャパン（HPCJ）」。その年会費（25,000円）が3年間無料になる入会キャンペーンを実施中です！ この機会にどうぞご検討ください。

〈受付期間〉2019年12月31日（火）まで
対象ホテルやご入会方法など、
詳細はクラブトラベラーサイトのキャンペーン記事をご覧ください。

お申し込み・お問い合わせは

クラブトラベラーサイト
clubtravelerjapan.com

Resort

憧れの「コンラッド東京」に特別レートで宿泊できる「スペシャル・ホテルステイ」を実施中

コンテンポラリーでラグジュアリーな滞在体験をご提供する「コンラッド東京」を、特別料金でご利用になってみませんか。ステイ中は毎日朝食サービスが無料。レストランでの飲食代20% OFFなどの特典が付き、特別レート（4,000ポイントから）でご宿泊いただけます。

キャンペーンの詳細は

クラブサービス　0120-805-811　日本国外・携帯電話からは 03-6866-4900
営業時間：月～土 午前9:00～午後6:00（日・祝日休）

クラブウェブサイト　club.hiltongrandvacations.com
ログインのうえ「メンバーオファーとプロモーション」→「コンラッド東京」からご確認いただけます。

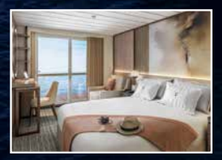
Celebrity X Cruises
SAIL BEYOND BORDERS

エリートメンバー様
限定ツアー第2弾

新たに生まれ変わった
セレブリティ・ミレニアムで航く

秋の日本周遊 スペシャルクルーズ

横浜港発着 関門海峡と日本の景勝地巡り
9月22日（日）～10月2日（水） 11日間



エリートメンバーの皆様のために厳選したプレステージな旅をご提案する、ヒルトン・グランド・バケーションズの「プレミアムツアー」。その第2弾は、「セレブリティ・ミレニアム」で巡る「秋の日本周遊 スペシャルクルーズ」です。

世界中のクルーズファンを魅了し、今春、大規模なリニューアルを経て生まれ変わった最上級クラスの客船で、日本各地（韓国・釜山含む）を訪ねる贅沢な船旅をご用意しました。洗練された美食、リラクゼーション、エンターテイメントの数々、そして世界トップクラスの船内設備と極上のホスピタリティに身を任せ、大海原への冒険へと出かけましょう。

SPECIAL 1 エリートメンバー様限定の特別プライス!

◆通常旅行代金から**10%OFF**

例）スタンダード内側（2名1室ご利用の場合）
¥485,600 ▶ ¥446,000
2名様で¥39,600お得です!

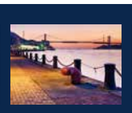
※左記料金例は、規定の旅行代金に、寄港料、政府関連諸税および港湾施設使用料、国際観光旅客税などが含まれた合計金額です。
※10%割引は、旅行代金にのみ適用させていただきます。

SPECIAL 2 充実のホスピタリティ

◆**HGVの社員**が乗船します
◆**メンバー様の交流イベント**を実施予定です
※イベントの内容は申込数によって変更になります。

SPECIAL 3 他にもお得な特典をご用意

◆**船内チップが無料**（1名様 ¥15,000相当）
◆1室1名様ご利用の場合の旅行代金 ▶ **通常200%のところ150%に**
◆乗船地・下船地が選べてクルーズ料金が割引になる**「区間乗船割引」**
▶ 詳しくはお問い合わせください



本ツアーは、エリートステータスのメンバー様のみご参加いただけます。

日	月日	寄港地
1	9月22日（日）	横浜（大さん橋）
2	9月23日（月・祝）	終日クルーズ
3	9月24日（火）	広島
4	9月25日（水）	関門海峡クルーズ 北九州
5	9月26日（木）	釜山［韓国］
6	9月27日（金）	舞鶴（京都）
7	9月28日（土）	金沢
8	9月29日（日）	秋田
9	9月30日（月）	青森
10	10月1日（火）	終日クルーズ
11	10月2日（水）	横浜（大さん橋）

このツアーの詳細は、クラブトラベラーサイトでもご紹介しています。
clubtravelerjapan.com/article/spot/5948/
※「トラベルスポット」で検索し、2018年11月の記事をご覧ください。※記事では各寄港地の情報や旅程などをご確認になれます。※本企画は特別プランのため、早期予約特典などは対象外となります。あらかじめご容赦ください。

［お問い合わせ］エリートメンバー様 専用ダイヤル
0120-805-212　日本国外・携帯電話からは 03-6866-4910
営業時間：月～土 午前9:00～午後6:00（日・祝日休）
［e-mail］hgvclubjapan@hgvc.com

RCI Exchange

Vol. 03

楽園バリへようこそ！

Bali

サーフィンやダイビング、伝統舞踊やアート、モダンで上品なバーやクラブ、そして最高のリラクゼーションを約束する極上スパ&マッサージ。ローカル色豊かなグルメからスタイリッシュな高級レストランまで、まだまだ味わいつくせない魅力があふれる、バリの旅へとご案内します。

エキゾティックな伝統文化と独特な雰囲気が多くの旅人を魅了してやまないバリ。何度も訪れたくなるこの島での素敵な過ごし方を、旅心を盛り上げる3つのリゾートと共にご紹介します。エリアで選ぶか、タイプで選ぶかは自由自在。それぞれに個性を持ったリゾートで、快適な滞在をお楽しみください。

マユラ・ア・カルマ・リトリート（#DA15）

バリアートの中心地、ウブド。ライステラスと森の緑に囲まれた美しいリゾートでは、バリの伝統と文化に触れるバケーションを満喫できます。早朝ヨガで清々しい空気を胸いっぱいに吸い込んだら、あなたはもうウブドの虜に。アロマの香りに包まれたスパのマッサージに身を委ね、身体の芯からリラックス。リゾート内のレストランでおいしいローカルグルメを堪能すれば、あっというまに1日が終わってしまいます。

デンパサール国際空港からリゾートまでは車で約50分

ラマ・ホリデイズ・アット・ラマ・チャンディダサ（#6920）

知る人ぞ知るバリ東海岸のビーチリゾート、チャンディダサ。リピーターに人気のこのエリアからは、プライベートビーチが広がり、美しい海を堪能できるリゾートをご案内しましょう。ダイビングやウォータースポーツ、ハイキングなど、アウトドア派も大満足。遊び疲れたら自慢のスパで海の香りに包まれながらバリニーズマッサージを楽しんでみませんか。プールサイドに寝そべってバリのカクテルに酔うひとときもおすすめです。

デンパサール国際空港からリゾートまでは車で約1時間半

ロイヤル・サヌール（#C386）

バリを代表する高級リゾートエリア、サヌール。お洒落なブティックやカフェ、レストラン、雑貨店などが立ち並び、ショッピングやグルメを楽しむエリアとして最高のロケーションです。また、日が暮れたら通りに出て、賑やかなナイトライフを楽しんでみては。心地よい風、ゆったりと流れる時間にリラックスしながら、多彩な表情を見せるバリの旅をお楽しみください。

デンパサール国際空港からリゾートまでは車で約30分

バリ旅行のおすすめアクティビティ ベスト4！

寺院巡り

バリの人々の大多数は敬虔なヒンドゥー教徒。大小さまざまなパゴダ（仏塔）や寺院が、島のあちらこちらに点在しています。海に浮かぶタナロット寺院、断崖絶壁に建てられたウルワツ寺院などは観光スポットとしてつとに有名。インスタ映えするフォトスポットとしても人気です。

ウブド & モンキーフォレスト

空港から北へ進むと、豊かな緑をたたえた森が広がるウブドに到着します。ここはバリアートの聖地。伝統工芸や絵画のギャラリー、伝統舞踊の舞踊団もあります。そして、もう1つ有名なアトラクションとしておすすめなのが、自然保護区の森「モンキーフォレスト」。ここには700匹ほどのサル達が棲息しています（野生のサルのため、入園時にはご注意ください）。他にもカフェや雑貨、ブティック、レストランなど、ウブドにはつきない楽しみが詰まっています。

スパ体験

伝統のバリ式マッサージをはじめ、ココナッツオイルとアロマオイルで全身をマッサージするアロマテラピー、デトックスや美顔、アーユルヴェーダなど、バリにはさまざまなトリートメントを提供するスパが軒を連ねています。スパのフルコースメニューに身を任せれば、旅の疲れもきっと癒やせるはず。スパ三昧の1日を旅のスケジュールに組み入れてみませんか。

バリのナイトライフ

インド洋を見渡すビーチフロントに広がる芝生とインフィニティプール、地元の新鮮な食材を用いた料理を提供するレストラン、最先端のバーやクラブ……。バリには充実したナイトライフを過ごせるスポットがいっぱい。毎夜さまざまなイベントが各所で催され、ゲストを楽しませてくれます。とりわけ若者を中心ににぎわうクタエリアには、話題のカフェやクラブが数多く点在しています。

次のバケーションのご予約は早速RCIまで。

club.hiltongrandvacations.com

How to Exchange
RCIリゾート交換方法

リゾート情報は下記にログイン
club.hiltongrandvacations.com

ダッシュボードの［クラブメンバーシップ］に表示される［RCIのリンク］をクリックすると確認できます。

STEP 1
日程を決める

週単位でのご利用は、チェックイン希望日の2年前から、1泊単位でのご利用は10ヶ月前から予約可能です。

STEP 2
リゾートを選択

ウェブサイトでキーワードや条件を入力して、交換できるリゾートの情報をチェック。必要なポイント数の確認もお忘れなく。

STEP 3
申し込み

利用したいプランを見つけたら、お電話（日本語対応）でお申し込みください。

0120-805-811 または、
03-6866-4900（日本国外・携帯電話から）
音声ガイダンスで6番を選択してください。

STEP 4
交換成立

申し込み条件で、空室が見つかれば、リゾート交換の成立です。バケーションの準備をはじめましょう！

RCI

あなたの素敵なバケーション、
それがわたしたちのすべてです。

RCI Asia Pacific Singapore, LLC
電話：0120-805-811
03-6866-4900（日本国外・携帯電話から）
※音声ガイダンスで6番を選択してください。
営業時間（日本時間）：
月～金曜日／午前9時～午後6時
土曜日／午前9時～午後2時
※日曜日、日本の祝日およびシンガポールの一部の祝日（クリスマス、元旦）は休業

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C002641